

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900309		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家 醍醐 (1ユニット)		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐新町裏町5-1		
自己評価作成日	平成28年2月13日	評価結果市町村受理日	平成28年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=2690900309-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様が笑顔暮らして頂けるように、職員全員で意見交換しそのご利用者様にあった支援・介助を実践しています。職員のスキルアップの為、毎月1回は管理者・フロアリーダーが研修を受け、それを施設に持ち帰り、職員に伝達研修を行っています。毎月一度は会社の経営理念とコンプライアンスを職員で読み合わせをしています職員の意識の向上、会社にはありがとうほめカードがあり、言葉では伝えられなくても文章に書き相手に果たす。職員同士の信頼関係作りやモチベーション維持にも役立っていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは職員間のコミュニケーションが良くとれており、情報の共有を重視し利用者のケアに当たっています。業務都合により、一人一人がなかなか研修に参加出来ない中、伝達研修を充実させ職員は必ず報告書を提出することで、内容の周知を図るなど工夫しています。リーダーはユニット会議の前に職員に意見を出してもらい内容を決めるなど、会議の中で職員個々の意見が活きるよう配慮しています。家族も協力的で、週に一度はホームを訪れ利用者との面会しています。また毎回案内状を送ることで運営推進会議には多くの家族が参加し、家族からの意見を運営に反映しています。防災意識も高く、避難訓練は予告なしに実施し終了後に再度行ったり、地域の訓練にも利用者と共に参加し、近隣施設に災害時の協力依頼をしています。また、外出や散歩などによるレクリエーションも充実しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である”笑顔あふれる家”地域の方や御利用者様、御家族様には元気で笑顔であいさつ出来るように日々伝えています。まだ施設が立ち1年と少しもっと知っていただく為進めています。	理念は開設時に全体会議において、この地で居心地よく暮らしていくために何が大切かを話し合い作られています。またユニット毎に目標を掲げ、1年後の見直しを予定しています。理念は毎月行われているユニット会議や全体会議で確認し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	レクなどで御利用者様が近隣に外出したり、地域の方がボランティアで来てもらい色々な事をして頂き交流しています。季節によってお祭りを開催して近隣の方にも来て頂いています。	利用者は社会福祉協議会主催のイベントに出かけたり、散歩や買い物の際に近隣の方と挨拶を交わしています。ホームの内覧会でたこ焼きを振る舞ったり、併設事業所と合同で開催する秋祭りに地域の方を招待しています。また近隣の方が太極拳や歌のボランティアに来てくれています。	管理者は新任の挨拶とホームのアピールを兼ねて、自治会や学校関係等訪問し、子供たちの来訪や行事の情報を得る機会にされてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントなどの開催により、地域の方々に参加頂く機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催により、事業所内の状況や報告を行なっています。包括はじめ、家族の方々のご意見を参考にさせて頂き、実践しています。	会議は民生委員や家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1度開催しています。会議の前には、家族に案内状を送り毎回多くの参加を得ています。会議では、ホームの現状を報告し、参加者から意見を聞いています。職員の名前を知りたいとの意見は現在検討中で、出された意見が反映されるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	まだまだ密に取れているとは言えませんが、できる限り連絡・報告をさせて頂くよう努めています。	運営推進会議の議事録を持参した際は区担当者や面談し、困難事例等の相談をしています。担当者は書類の書き方等で電話しても気軽に対応してくれています。また区の事業所会議にも担当者が参加し、助言をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を全社員が受講し、拘束のないケアに努めておりますが、建物の造りから、危険が伴うこともあり、現在は各フロアの入り口は施錠させて頂いております。	管理者が職員に伝達研修を行い、報告書を提出することで身体拘束についての理解を深めています。全体会議の中でも議題に出し、何気ない言葉や行動にも注意が必要であることを確認しています。ユニット入り口は施錠していますが、散歩やユニット間の移動等で閉塞感の無い支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、「しない・させない・見過ごさない」を徹底しています。		

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の研修を徹底し、制度についての学ぶ機会を設けています。また、必要に応じて、活用支援を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明を行ない、十分な説明・理解をして頂けるよう、努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を主とし、玄関に意見箱を準備させて頂いています。ご意見頂いた内容については、事業所で検討し、反映できるように努めています。	利用者には日々の関わりの中で意見を聞いています。また頻繁にある家族の訪問時に職員が意見を聞くようにしています。運営推進会議の案内状を毎回送ったり、アンケート調査を行うなど意見が出やすい工夫をしています。意見を受けて面会簿の記入方法を変更したり、買い物の外出支援を取り入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月に一回は各フロア会議やリーダー会議・職員全体会議を行ない言いやすい環境を作り定期的アンケートを取り思いや意見等聞き職員同士で決定して行っています。	リーダーはユニット会議の前に職員の意見を聞いて内容を決め会議で意見が反映できるよう努めています。備品購入の希望を取り入れたり、花壇を整備して野菜を植えるなど、出された意見が反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に毎年目標を立ててもらい、達成できた職員の中から年に一度その施設や職員に対して表彰したり、誰伸び制度があり自分で評価をしてもらい、管理者と話をし賃金アップを決めたり、しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部の研修参加を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外研修や勉強会の参加により、交流の機会を持てるようにと、思っています。		

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、本人様の聞き取りを行ない、不安の解消・安心ある生活の場の提供ができるよう、細やかな内容を大事にし関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族様に確認をし聞き取り強化しております。入所前の状況や思いを傾聴し、思いに添ったサービスの提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援を見極めた、サービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活が、その方の生活の場であり、「家」として認識しています。出来ること・出来ない事を見極めながら、自立に向けての生活を送って頂けるよう、関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様と家族様の関係・絆を何よりも大切に、互いに協力し合える関係づくりを築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方々や馴染みの場所への外出を含め、関係を出来る限り継続して頂けるよう努めています。	親戚や友人、近所の人等が訪ねて来ています。職員はお茶や椅子を居室に運び、ゆっくり話ができるよう努めています。法事の際に会場まで送迎したり、自宅や近所までドライブするなどしています。また友人宛にハガキを出す支援をするなど、利用者の馴染みの人や場所を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にする者同士の関係づくりに力を入れています。		

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントなど開催時には、ご案内させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の言葉にはしっかりと耳を傾け、今何をしてほしいのかを把握し進めて行っています。	入居前に自宅や入院先、施設を訪問し、本人や家族から希望や意向、これまでの暮らし方等を聞いています。入居後は入浴中など、ゆっくり話せる場所で、昔の話や好きなこと、したいことを等を聞き、アセスメントに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されるまでの環境や生活歴を聞き取り、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の今までの暮らしの現状を把握し、心身状態・有する力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを始め、課題を分析した介護計画を作成している。	利用者や家族の希望をもとに、担当者会議で話し合い介護計画を作成しています。初回は3か月で見直し、以降変化がなければ6か月で見直しています。介護計画は毎月のユニット会議でモニタリングを行い、見直し前にはサービス担当者会議を開催し、事前に聞いた家族の意向や往診時に聞いた医師や看護師の意見等も反映し現状に即した介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を重要視し、情報の共有を行ない介護計画の見直しなどに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握・検討を行ない柔軟な支援に取り組んでいる。		

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携・関係を持ち適切な医療を受けられるよう支援させて頂いています。	入居時に医療体制を説明し、希望するかかりつけ医を決めています。協力医や歯科医の往診は毎週あり、利用者は必要に応じ受診しています。専門医の受診は家族が行いますが、職員が同行することもあり、受診時の情報は相互に伝達しています。日々の健康管理は職員である看護師が行い、医師との連絡調整も担っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐による、医療面での相談・利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を取り、入院時の状態の把握に努めています。また、退院時の情報交換により、安心して頂いての準備に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族様との話し合いを重要視し、安心した最期を迎えて頂くための、話し合いを何度も行ない、方針の共有と支援に取り組んでいます。	入居時にホームの看取り指針をもとに説明しています。重度化の際は医師から家族に説明してもらい、ホームとして出来る支援を伝えて再度希望を聞いています。医師の協力を受け、家族、看護師、職員が見守り最後を迎えた経緯もあり、ユニット毎の看取り研修も行い今後の支援に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や初期対応の訓練を定期的実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回の消防訓練を実施し、消防署・地域との協力体制を築いています。	昼夜を想定して併設事業所と合同で年に2回避難訓練を行っています。今回は消防署の提案で予告なしで行う旨を町内に事前に伝え、通報や初期消火、避難誘導等を行いました。突然の訓練で思うように動けず、終了後に再度訓練を実施しています。地域の消防訓練にも利用者と共に参加し、近隣施設に災害時の協力依頼も行っています。水や缶パンなどの備蓄も用意をしています。	

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉かけには気を付け、プライバシーに配慮させて頂いた対応を心がけています。	管理者がホームで接遇やプライバシー保護についての伝達研修を行い、周知を図っています。トイレ誘導や入浴の際は特に注意を払い、小声で声かけしたり、タオルをかけ羞恥心への配慮を行っています。言葉づかいは職員間で常に注意し合い、管理者もその都度説明した上で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ずご本人には確認をさせて頂く対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、ご利用者様優先の支援をさせて頂くよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する時は御利用者様に声かけしながら選んで頂いたり、その状況に合わせた身だしなみの支援をさせて頂けるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に集中して頂けるよう、穏やかな音楽を提供し、出来る事はして頂きながらの支援をさせて頂いています。	業者の立てた献立に沿って食材が届き、主に職員が調理しています。煮物など時間のかかるものは真空パックの調理品を使うこともあります。職員は月に一度はお好み焼きやおでん、誕生日のケーキなどを利用者と一緒に作っています。食事は検食や弁当などを利用者と共に摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握、摂取方法を考え提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様のADLに応じて毎食後、声かけや介助をしながら行っています。		

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔の空いている御利用者様には声かけしトイレに誘導したり、	職員は個々の排泄記録によりパターンを把握し、トイレ誘導による排泄を支援しています。カンファレンスで話し合い、誘導方法を共有することで退院後に紙パンツから布の下着に変更出来、皮膚の状態が改善した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供や軽度の運動を促し、取り入れながら、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日に関しては、一応定めさせて頂いていますが、その時の状態や御本人の意向を確認させて頂き、個々の入浴支援をさせて頂いています。	利用者は週に2回入浴していますが、希望があれば回数を増やすことも可能です。湯は利用者毎に入れ替え、入浴剤や個々のシャンプー、季節のゆず湯など、楽しみながら入浴できるよう支援しています。拒否が見られる利用者には歌と一緒に歌ったり、好きな話をしながら誘導するよう心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、状態把握の上 日中の入床時間は短く、リズムのある生活を送れるよう支援させて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理をさせて頂いている為、職員が薬の理解をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持った生活が送れるように、支援させて頂けるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援が、まだまだ出来ないのが現実ですが、希望に添った外出の支援ができるよう努めて行きます。	利用者は日々の散歩や買い物の他、社会福祉協議会の催しや隣の敷地に野菜を買いに出かけています。また利用者の誕生日には希望に沿って外食に出かけています。職員は初詣や花見、紅葉狩りなど季節の外出支援も行っています。	

グループホームたのしい家醍醐(1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員のご利用者様に関しては、必要な経費分は施設管理させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の了承の下、電話やお手紙の支援をさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間づくりの工夫をしています。季節を感じて頂けるよう、壁紙なども工夫しています。	節分やひな祭り等、毎月貼り絵の作品を職員と一緒に作成しリビングに飾ったり、鈴虫を置くなどして季節を感じる支援を行っています。また庭に花壇を作り夏野菜を育てています。掃除は毎日利用者と職員が行い、空気清浄機を配置するなど、清潔を心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる空間は、現状提供できていないかと思われます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自身の居室は、使い慣れた物や思い出の品などを持参されたり、居心地よく安心して過ごせるよう工夫させて頂いています。	クローゼットやベッドが用意された居室に、利用者は自宅から机や椅子、たんす、化粧品、仏壇、家族の写真等持参しています。以前作ったパッチワークや編み物の作品を飾ったり、家族がお雛様や五月人形を持ち込み飾るなど、個々の利用者が落ち着ける空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り わかりやすく安全に生活して頂けるような環境づくりに努めています。		